

令和3年度 北海道森高等学校 経営シラバス評価表

☆各項目、職員回答の A：そう思う⇒4 B：どちらかというと思う⇒3 C：どちらかというと思わない⇒2 D：思わない⇒1 として平均を算出（2.5が基準）

領域	対 象	中 期 目 標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	評価平均		考 察
					R 2	R 3	
教 育 活 動	学習指導	○学習習慣・基礎学力定着及び主体的学習態度の育成	①粘り強く丁寧な指導による授業規律の徹底と学習環境の整備	①共通理解と組織的な指導により、規律ある落ち着いた学習環境の整備ができたか。	3.0	2.9 	一部、特定の教科・科目において、規律ある学習態度の維持が困難になる様子も見られた。落ち着いた学習態度で授業が展開できるよう、今後も継続して、環境維持、改善に努めていく。
			②授業改善、評価方法の工夫による学習意欲の向上と基礎基本の定着	②生徒の実態に応じた授業改善、評価方法の工夫について組織的に取り組めたか。	2.8	2.7 	新学習指導要領実施に向けた、3観点による観点別評価の整備、評価を踏まえた授業改善について校内研修等を行ってきた。教務部を中心とした、全校的な共通理解、評価のさらなる整備が必要である。
			③授業内容、学習方法の工夫による主体的な学びの育成	③講義のみに頼らない、学びを定着させるための工夫と改善がなされたか。	3.1	3.2 	外部講師の活用や、地域と連携した学習活動の実践等、教科・科目ごと、随所に工夫や改善が図られ、学びの定着が図られたと考える。次年度も継続していく。
	生徒指導	○規範意識・公共の精神・社会性及び豊かな心の育成	①保護者等と連携した組織的な指導による基本的生活習慣の確立	①基本的な生活習慣を確立する指導が共通理解の下で行われ、公共の精神や社会性を育むことができたか。	2.8	2.9 	各担任を中心に、保護者と連絡を密に取り合うことで、生徒情報を共有しながら指導に当たることができた。基本的生活習慣の確立については、学校・家庭との連携が必要との共通理解のもと、次年度も継続する。
			②日常的な実態把握と情報共有、早期対応によるいじめや不登校等の未然防止	②全ての教育活動を通して豊かな心を育み、問題行動等の未然防止や早期対応を図ることができたか。	3.0	2.7 	様々な要因から不登校となるケースや、軽はずみな行動から問題行動に発展し、指導を受ける事案が数件発生した。委員会や生徒指導部を中心に、またS C、P T等を活用し、改善に向け指導を継続している。
			③部活動、生徒会、ボランティア活動等への積極的な参加による帰属意識や社会性の育成	③部活動等への積極的な参加を通して、協働することの大切さを理解し、自己有用感を高めることができたか。	2.4	2.8 	コロナ禍の影響が依然大きく、部活動の大会、学校行事、ボランティア活動も制限しながらの実施となった。ただ、実施の工夫等により、生徒の自己有用感の醸成につなげることはできたのではないかと考える。
	進路指導	○キャリア教育の充実による望ましい勤労観・職業観の育成及び主体的進路決定力の育成	①小規模総合学科校としての特色あるキャリア教育の確立と実践	①キャリア教育計画の充実により、系統的で組織的なキャリア教育が行われたか。	2.9	3.0 	キャリア教育計画に沿って活動を進めてきた。コロナ禍により、制限をつけながらの活動もあったが、概ね計画通り進めることができた。さらなる職業観、勤労観の育成に向け、計画を精査していく。
			②自己理解に基づき、主体的に進路を選択し、行動できる生徒の育成	②産社、C L、各種検査や模試結果の活用と面談等を通して生徒の進路適性を見極め、高い目標を目指す効果的な指導ができたか。	2.6	3.1 	産社やC L、進路面談等を通じて、自己理解に基づいた主体的な進路選択、進路実現に向け指導を進めてきた。生徒によって意識の幅が大きく、動きだしの遅いケースもあり、早めの指導、意識付けの必要性がある。
			③家庭や地域と連携した組織的な進路指導の推進	③関係機関と連携を密にし、適切な情報提供や組織的な進路指導が推進できたか。	3.0	3.2 	地域企業の協力もあり、ここ数年、高い割合で進路実現を果たせているが、今後も生徒一人一人の希望や適正、将来設計を十分に考慮し、丁寧な進路指導を推進していく必要がある。
	健康・安全指導	○心身の健康増進を図る環境美化意識・安全意識の向上	①生活習慣や心身の健康等、自立的な健康管理を促す指導の充実	①関係機関と連携し、心身の健康管理や望ましい生活習慣の確立に向けた意識啓発・指導を実施し、生徒の意識を高めることができたか。	3.0	3.1 	新型コロナウイルス感染症対策では、日々更新される情報を整理し、生徒、家庭への周知、環境整備を最優先に取り組んだ。全体として意識の高揚や、環境整備の向上が図られたと考える。
②健康で安全な生活を営むための安全指導の充実			②薬物乱用防止や防犯・交通安全指導、情報モラルの指導等を計画的に実施し、生徒の危機管理意識を高めることができたか。	3.0	3.3 	コロナ禍の影響もあったが、概ね計画通りに進めることができた。生徒の危機管理意識の向上に努めることができたと感がる。今後もさらなる意識の向上に向け、計画を精査していく。	
③日常の美化活動等を通じた学習環境、地域奉仕への意識の高揚			③環境整備及び美化活動が全校的・計画的になされ、校舎内外の美化が保たれたか。	3.0	3.0	校舎内外の清掃、美化に努めてきた。また、通学路の花壇整備・校外清掃活動等、一定の成果を上げている。美化意識とともに公共心及び道徳心を育てる活動を、今後も継続していく。	

学 校 経 営	信頼と活力のある学校づくり	○開かれた学校づくりの推進	①道立学校職員として道民の負託に応えた信頼される学校づくり	①様々な機会を通して保護者や地域との信頼関係の構築がなされ、期待に応える教育活動を実践できたか。	3.0	3.3 	今後も良好な関係を築くため、服務規律の保持、日常の職員研修等を継続していく。
			②本校教育活動に関する情報の積極的な発信	②教育活動内容や成果を、保護者や地域へ適切に周知できたか。	3.0	3.4 	学校ホームページの定期的な更新や、報道等への学校情報の発信など、積極的な情報発信に努めた。今後も積極的な発信を行い、社会に開かれた教育課程の実現に向け進めていきたい。
			③地域、異校種、関係機関との連携による教育活動の充実	③学習、生活、部活動、ボランティア活動等を通して連携・協力を図り、地域に貢献できる教育活動を行うことができたか。	3.0	3.3 	町内小中学校の授業参観や、オープンキャンパス、学校説明会の実施など、異校種連携を進めることができた。また、地域の教育資源を活用し、学習の充実を図ることができた。次年度も継続していく。
			④社会に開かれた教育課程の実現	④地域の教育資源を積極的に活用し、学習内容をより充実させることができたか。	2.9	3.5 	地域の教育資源を活用し、生徒の学習の充実を図ることができた。次年度も充実した取組や実践を継続していきたい。
			⑤カリキュラム・マネジメントに資する学校評価の活用と改善	⑤教育計画・重点目標の達成状況が適切に評価され、教育活動の改善に活かされているか。	3.0	3.2 	保護者・教職員からの学校評価アンケートを実施した。アンケート結果の分析から、次年度の具体的な方策をしっかりと立て、確実に学校改善に活かしていく。
	組織運営	○学校課題の共有と課題解決に向けた協働体制の確立及び業務の整理・効率化	①小規模総合学科校として学校力を向上させる、全教職員の経営参画と協働意識の充実	①学校課題を共有し、全職員が協働してその実現・改善・解決等に向けて取り組むことができたか。	2.7	3.1 	学校課題を全職員で共有し、その改善に向けた特設組織の創設、調査、協議など、具体的な活動に取り組むことができた。今後は改善案の実施など、より具体的な活動を推進していきたい。
			①分掌組織、年次間の連携強化と働き方改革による業務遂行能力の向上	②働き方改革を踏まえた組織体制の整備と分掌・年次間の情報共有による業務の効率化、個人の能力の向上を図ることができたか。	2.8	2.7 	職員数が減り、組織の見直し、業務の精選が必要となっている。働き方改革の神髄は「生徒と向き合う時間の創出」にあることを再認識し、教育の質の向上を目指した業務推進の改革を図っていく。
			③団体会計や私費会計の適切な処理	③相互牽制が機能し、適切な会計処理等がなされたか。	3.5	3.5	諸納金、検定料、実習費などの金銭処理について、担当者一人一人が適正な会計処理に努め、事故なく推進することができた。今後も適正な処理ができるよう、管理の徹底や複数での確認に努めていく。
	教職員の資質向上	○服務規律の保持 ○組織的な研修体制の確立	①服務規律の保持及び危機管理能力の向上	①服務規律に係る様々な取組を通して「不祥事は絶対に起こさない」という意識を持ち、教育公務員としての職責を果たしたか。	3.5	3.6 	日頃からの声かけや校内研修等により、教職員の意識は高く維持することができた。一人一人が強い決意のもと、今後も服務規律の保持に努める。
			②教科指導力、生徒指導力の向上を図る研修の充実	②授業公開や授業評価等を活用し、授業改善に向けた取り組みを推進できたか。	3.2	3.3 	年間2回の「授業公開週間」を設定し、互いの授業を見合うことで、授業改善を図るよう進めてきた。参観者が少なく、授業後の合評会等が実施できない点については今後改善を図っていく。
			③校内外の研修会等への参加と成果の共有化	③資質向上に係る研修に積極的に参加し、その成果を他の職員と共有できたか。	3.2	3.4 	コロナ禍により、校外研修がオンライン研修に変更され、昨年よりも参加しやすい環境となっている。次年度は各教科担1名体制ともなるため、積極的に研修機会を利用し、指導力向上、学校教育力の向上に努めていく。

教育活動U	P	8項目／12
教育活動DOWN		3項目／12
学校経営U	P	9項目／11
学校経営DOWN		1項目／11